

【審査員プロフィール】

チョ・ジュンピル（趙 竣秘）

- アジョー大学救急医療部（韓国水原市）教授
- 地域安全向上センター（同上）（※）センター長
- 国際セーフコミュニティネットワーク 副理事長
- セーフコミュニティ公認認証審査員

（※）セーフコミュニティ支援センター・インターナショナルセーフスクール支援・認証センター



1983年 延世大学医学部卒業後、外科医として経験を重ね、1996年より救急外科医となる。

受傷による救急外来の患者の対応をするなかで、予防の重要性を感じるようになる。その後、アメリカでの研究時代にSCの概念に出会ったことをきっかけに韓国にSCの概念を紹介した。

2000年に韓国で初めて水原市がSCを導入した際に支援したことをきっかけに、アジョー大学医学部に地域安全向上センター（韓国におけるSC支援センター・ISS支援及び認証センター）を設置した。

国内外での取り組みが評価され、2010年 "International Distinguished Safe Community Career Award"を受賞。

国際SCネットワークの副理事、アジア地域SC支援センター連合の副理事として国内外のSC推進に尽力している。日本においても、ほとんどの自治体を訪問しており、事前指導や現地指導を通して支援をいただいている。

パイ・ル（白 璐）

- 台湾事故傷害・安全促進学会 学会長
- 台湾社區安全推進センター センター長
（セーフコミュニティ支援センター及びセーフスクール支援・認証センター）
- セーフコミュニティ公認認証審査員
- セーフスクール公認認証審査員
- アジア地域セーフコミュニティ支援センター連合 理事長



（アメリカ）ジョンズホプキンス大学等で博士課程及びポスドク（研究員）として教育を受けた後、台湾に戻り台湾医科大学及び国防医学院において生物統計学及びセーフティプロモーションを指導してきた。退職した現在も、大学において指導を続けている。

その一方で、SC支援センターである「台湾社區安全推進センター（TCSPC）」のセンター長を務めるとともに、アジア地域セーフコミュニティネットワークの副理事長を務めている。

台湾における傷害予防及び安全向上の分野における先駆者の一人であり、2002年にセーフコミュニティを台湾に導入して以来、これまで20のコミュニティをセーフコミュニティ認証に導いてきた。現在、台湾内で30を超えるコミュニティがセーフコミュニティ活動を推進しているなか、「台湾のセーフコミュニティの母」として慕われており、精力的にコミュニティの支援を行っている。

日本においても、これまで多くの自治体のセーフコミュニティ活動及びセーフスクール活動の事前指導にご協力くださるとともに、認証審査員として多くの自治体及び学校の認証審査を務めている。

【アドバイザー】

白石 陽子（しらいし ようこ）

博士（政策科学）

- 一般社団法人 日本セーフコミュニティ推進機構代表理事
- アジア地域セーフコミュニティ支援センター連合 事務局長
- セーフコミュニティ公認認証審査員
- セーフスクール公認認証審査員
- 立命館大学衣笠総合研究機構 研究員
- 韓国亜州（アジョー）大学医学部 客員教授



立命館大学大学院政策科学研究科博士課程後在学中に安全なまちづくり活動「セーフコミュニティ（SC）」に出会い、研究プロジェクトチームの一員として SC 発祥の地であるスウェーデンのカロリンスカ研究所（医科大学）に派遣され SC について研究する。帰国後は、日本の地方自治体が SC に取り組む意義と限界をテーマに研究を進め、博士号を授与される。博士号取得後は、立命館大学、京都大学大学院等で研究を進める。

2011 年には、これまでの SC 活動に関する研究及び支援の実績を認められ、SC 支援センターである「一般社団法人 日本セーフコミュニティ推進機構」を設立。また、同年 12 月には、学校版 SC とも言われる「インターナショナルセーフスクール（ISS）」の支援・認証センターとしても認可され、保育所や学校などを中心とする「安全な学校づくり活動」の支援と研究も開始した。

2017 年 11 月現在、国内で SC に取り組む 16 自治体と ISS に取り組む 30 の保育所・小学校・中学校・高等学校を支援しながら、SC 及び ISS の研究を続けている。

国内外においては、国際 SC ネットワークの理事として、また公認認証審査員として SC 及び ISS 活動の支援・認証審査を行っている。